

令和5年度 日本大学自主創造プロジェクト

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

2023015

プロジェクト名 ～建築でア・ソ・ボ～

プロジェクトの概要

近年問題視されている「建築業界の人手不足」について考える。この問題に対して私たちは、今学習している「建築」という分野について子供たちに触れる機会をもってもらいたいという願いでこのワークショップを開催しようと考えました。

対象年齢は小学校低学年として、自分の考える建物を作成してもらおう。そして、事前に準備した小学校周辺の敷地に作った建物を配置し、子供たちの理想の街を作成する。これをきっかけに建築に興味をもってもらいたい！

プロジェクトの結果・成果

当初の計画では、子どもたちと一緒に遊具をデザインすることで、物作りする機会をつくることを目的としていたが、安全面を考慮した結果、遊具を作ることは難しいと判断して家やビルの模型を作り、大きな地図上に並べて街を作るという企画に変更した。このプロジェクトを通じて子供たちにはモノを作る楽しさを知ってほしいと考えた。

事前準備として、スチレンボードを正方形や長方形に切り出し、壁や屋根になる部材と、敷地を1/100サイズで印刷した。

我孫子市立高野山小学校の協力のもと、2024年1月9日にプロジェクトを実施した。参加者は大学生16人、小学生26人であった。

事前に用意したスチレンボードを組み合わせたたり、色を塗ったりすることで子供たちが思う各々の建物を作った。敷地を小学校周辺にしたことで、実際に子供たちが生活している街ということもあり、ビルや商業施設を看板まで忠実に作る子ども達も多くいた。一方で、こんな建物があったらいいなという考えから空想のタワーや遊園地などを作っている子ども達もいた。

準備したスチレンボードのパーツの数や形には限りがあったため、必要な物は、その場で新しい形の部材を切り出して、子ども達の要望に対応した。

約3時間の作業時間で、敷地の上はカラフルな建物でいっぱいになり新しい街が出来上がった。

プロジェクトを通して、自分の頭の中で考えた建物を実際に形にする体験を通じて子供たちに建築とは何か少しでも体験してもらえた。活動終了後には自分の作った模型を家に持って帰る子どもも多くいて、建築に興味を持つきっかけになったのではないかと思う。それだけではなく、大学生側は固定概念にしばられない子供の考え方に良い刺激をもらうことができた。

活動写真

